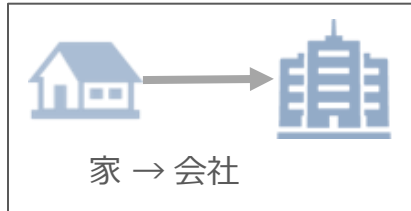


リモナビ 繋ぐ・機能説明

どこからでも、どこへでも接続する
「繋ぐ機能」編

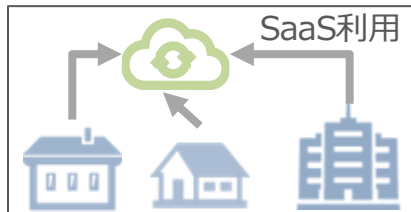
私たちのリモート・ライフ、繋ぐとは？



このケースで接続できる会社も多いと思います

- ・VPN機器の設置・管理・運用が必要
- ・会社にいるときと同じ操作が可能

- ⇒ それなりの費用と技術者が必要
- ⇒ VPN未接続中のマルウェア感染が会社環境にそのまま影響します



クラウドサービスを利用して情報共有やコミュニケーションする会社も多いと思います

- ・クラウドサービスの契約が必要
- チャットや経費精算など
- 用途に応じたSaaSを個別に契約

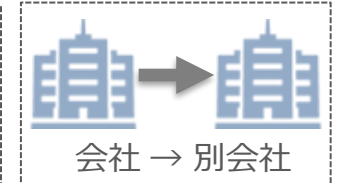
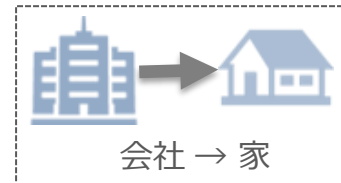
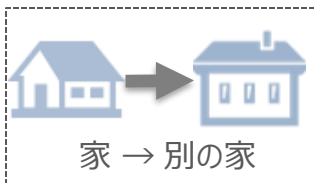
- ⇒ それなりの費用と技術者が必要

「会社」が 契約して社員に提供されるサービスがほとんど。

相当規模の会社しか負担できない費用

容易ではないセキュリティ対策

今は難しい利用シーン



- ・ 仕事以外でも
- ・ 会社を経由しなくても。フリーランスにとっても
- ・ 会社は何も提供してくれなくても

- ・ 在宅勤務で自宅PCにデータを置いてきてしまったなど
- ・ 保守・運用会社の業務
- ・ 外部から操作できない作業

(アクセスには会社許可が必要)

簡単ではない通信で繋ぐということ

実は通信はどこへでも繋がりはしないのです。なぜ？

① 会社から家へは？



② 外出から家へは？



③ 外出から別の外出先へは？



④ 家から会社へは？



理由は大きく
2つあります

宛先の住所がわからない

こんな文字列を見たことがあると思います

<https://remonavi.com>

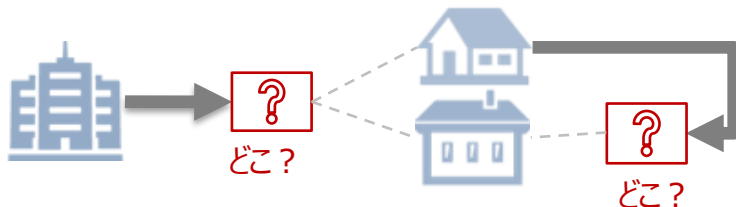
この下線部が住所なのですが、家や出先には固定的な住所が振られていないのです。（住所を割り当てることは可能です）

①②③

繋がないようにしているから

ある程度の規模の会社では有料で住所を割り当てています。ですが会社の出入り口で出入りを制限しています。ただし最近はリモートワークで特別な通信のみ許可していることが多いです。

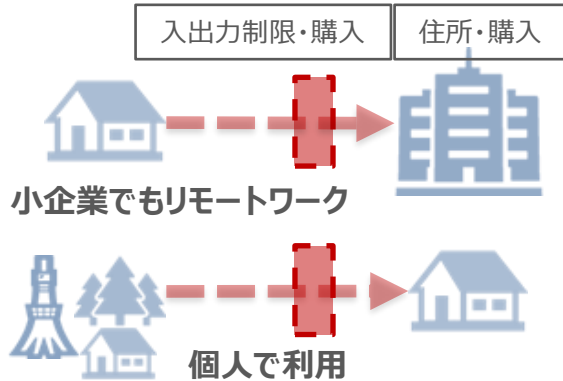
④



繋ぎたい。◇住所もなにもない編◇

宛先の住所があれば？

誰からも見えるようになれば攻撃にさられます



そこまでの価値がある？

住所・購入：固定IPアドレス購入など

そこまでの価値がある？

実は通信には色々あります。WEB通信などは多くの基礎的(L3,4,5,6)通信技術によって実現されています。

[L3] IP ⇒ [L4] TCP, UDP ⇒ [L6] TLS(ssh) ⇒ [L7] http,https(WEB)

リモナビ **個人・小企業向け** サービス (WEB通信だけでなくL4,L6も利用可能)

ならこれらの問題全てを解決して、会社にでも家にでもどこにでも安全に接続できます。

宛先の住所は不要です

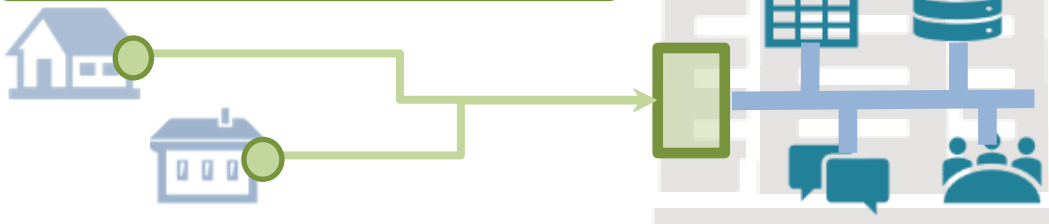
入出力制限機器も不要です

月額数千円で接続できます

どう接続するかは、最後に！

繋ぎたい。◇VPNのメリット・デメリット◇

VPNは社内ネットへ直接接続します
社内にいるのと同じことをリモートでできるのです



VPN未接続時は

・会社制約も受けず、監視もされません

VPN接続中は会社にいるのと同じ

・会社と同じ制約と監視を受けます

VPN未接続時の未監視状態で感染などすると、社内情報すべて危険にさらされます。

リモナビ

個人・小企業向け | 企業向け

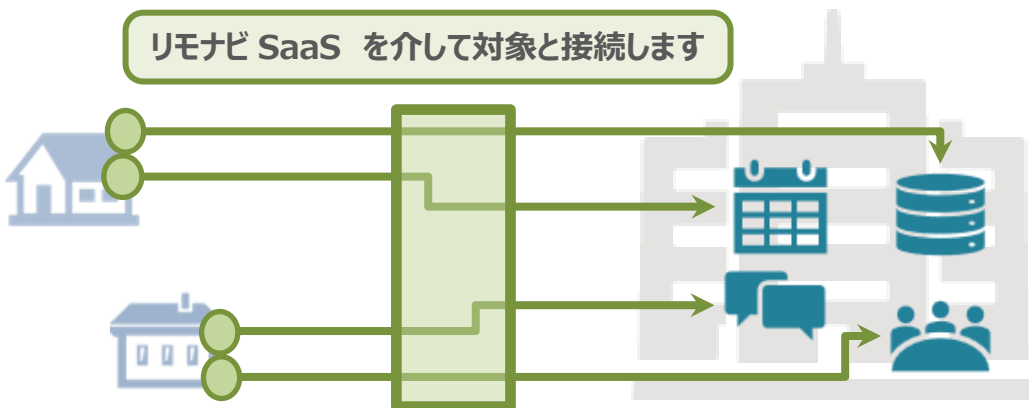
サービスはVPNとはここが違います

社内ネットに接続するのではなく、設定した操作対象としか接続できません。

接続は、管理者と利用者双方の許可が必要

対象とアクセスはすべてログに記録されます

リモナビ SaaS を介して対象と接続します



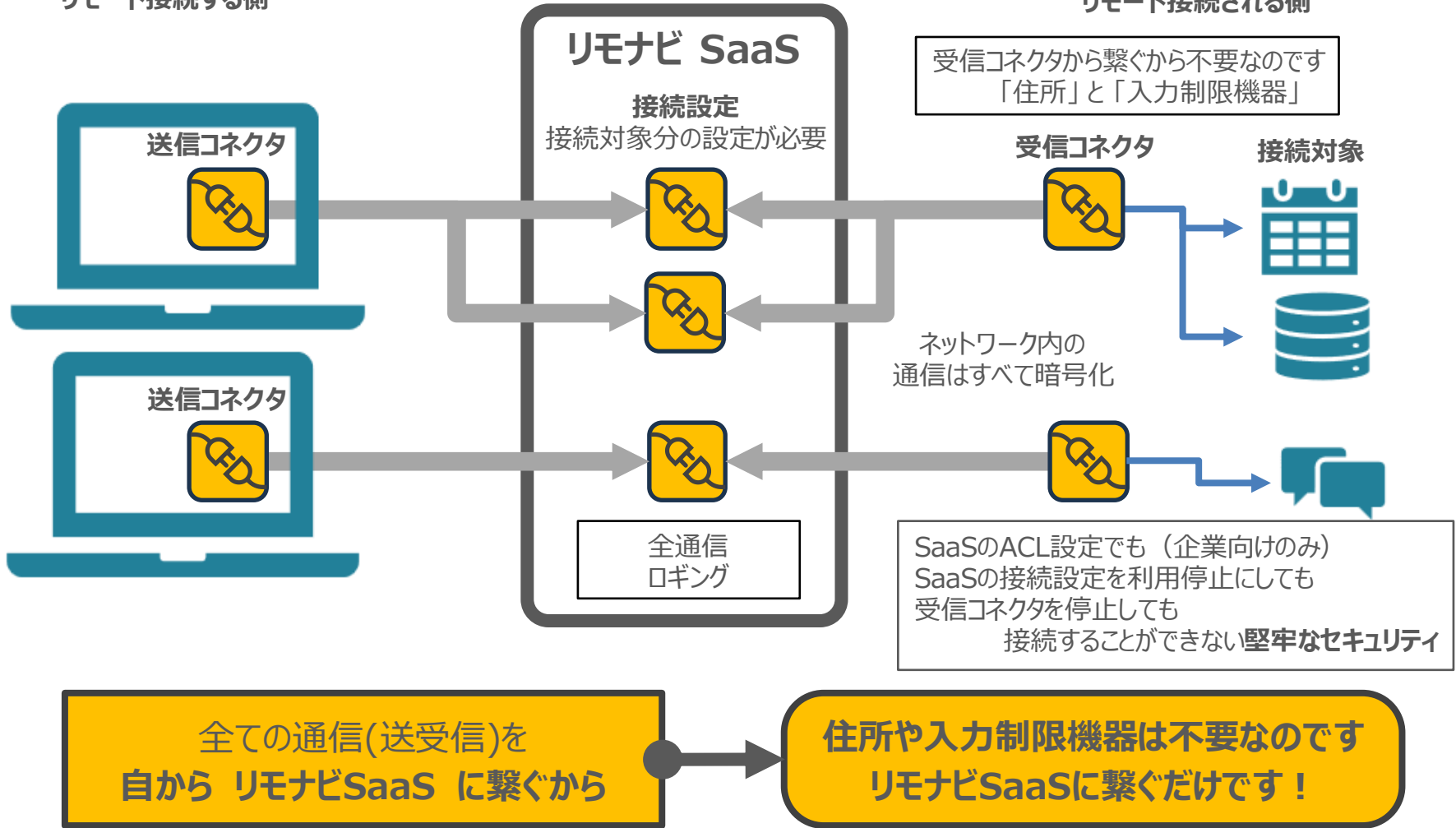
全ての対象と接続すればVPNと同じことが可能
社内ネットへの直接接続ではないため、万が一の感染があっても、影響範囲が限定されます。

接続対象毎に接続設定が必要になります
接続対象が多いほど設定が面倒になります。

こう繋ぐから、リモナビだけでよいのです

リモート接続する側

リモート接続される側



※ 送信コネクタ、受信コネクタは リモナビSaaSからDLして、インストールする必要があります。